

1. 活動の概要

5月18日(水)、松江市立美保関中学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに島根県埋蔵文化財調査センターの職員から、弥生時代の米作りや食生活、当時の土器や石器について話を聞きました。その後、遺跡から出土した本物の土器や石器に触れたり持ち上げたりして、その手触りや重さを実際に感じました。以前に土器のレプリカに触れたことがある生徒さんがいらっしやいましたが、本物の土器は薄くつくられているため、「思っていたより軽かった」そうです。また、稲の収穫に使う石包丁や石鎌の刃の鋭さにも感心していました。

休憩をはさんで、火おこしと、土器を使った古代米の炊飯体験を行いました。火おこしはまい切り式の用具を使い、2人が一組になって協力しながら行いました。うまくいかなかった生徒さんもいましたが、2回目の挑戦では炎が燃え上がり、大成功でした。このときもいったん火種が消えそうになったのですが、生徒さんが手順をよく理解していて、麻や着火具を素早く用意してくれたおかげで着火することができました。炊飯体験は、炊飯用の土器を使い、校庭にレンガでつくったかまどで薪を燃やして炊きました。薪で火を焚いた経験は無かったようで、火が大きくなるまで少し手間取りました。また、土器にうまく火力が伝わらなかったのか沸騰するまでに時間がかかりましたが、無事に時間内に炊き上がりました。その後の片付けもみんなで協力して行い、安全に終わることができました。

2. 活動の様子



説明を熱心に聞いています。



火おこしの手順を説明してもらっています



火おこしに挑戦。



赤米を炊く準備。



火が強くなってきました。

※古代米の炊飯については、学校側で予め校庭で火を焚く許可をとっていただいたうえで実施しました。

また、コロナ禍の状況を踏まえ、炊飯体験のみとしました。

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- 火おこし体験が楽しかった。
- 思ったより早く火が着いた。

2)担任の先生から…

○体験を通して学んでいくことが有効なので、今回の学習はとても良い機会でした。生徒も生き生き活動していました。

3)埋文センターから

○屋外での炊飯体験は火を使うこともあり難しいかと思っていましたが、先生のご尽力で実施することができました。生徒さんもよく話を聞いて、手順をよく理解していたため、火おこしもうまくいきました。炊飯体験でも積極的に活動ができていました。これをきっかけに昔の人々やその暮らしに興味を持ってくれたらうれしいです。